

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 杉本裕子

所属: 高知県立山田養護学校

記録日: 2017年 2月24日

キーワード: 要求表出、見通し

【対象児の情報】

・学年

小学部2年生男児

・障害名

知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

・休み時間はあまり人と関わろうとせず眺めながら一人で過ごすことが多い。絵カードでの自発的なコミュニケーションは「トイ」
レ」と「絵本」のみ。

・学習の流れや一日のスケジュールに見通しが持てなかったときに泣いて抵抗することがある。

【活動目的】

・当初のねらい

○学習目標: 単語で要求ややりとりができる場面を増やし、欲しい物、やってほしいこと、行きたい場所などが相手に伝わる経験を重ねる。

○方向性: ①本児が欲しい物、やって欲しいこと、行きたい場所のカードを充実させ、単語での要求場面を増やしていく

②単語での要求が充実し、定着してきた段階で、動詞を選ぶなどしての文章づくりに移行していく

第3段階として、コミュニケーションアプリを使用したICT機器の活用を検討していたが、カードの方が伝えたいときにすぐに伝えることができること、タブレット端末の操作が本児に少し難しいことなどから、コミュニケーションアプリへの移行が現段階では有効ではないと考える。

しかし、学習の見通しを持たせるために事前に動画を見せることで、落ち着いて学習に取り組めることがある。本児の困り感や不安感を取り除くための一つの支援ツールとして、ICT 機器の活用を検討していく。

・実施期間

2016年5月から2017年2月

・実施者

杉本裕子

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・自発的な発語はないが、教員の言った言葉の語尾をまねるように発声したり、促すと「先生」などの単語を不明瞭ではあるが言ったりすることができる。
- ・絵カードでの自発的なコミュニケーションは「トイレ」と「絵本」のみ。
- ・一日の中で急に泣いて怒ったりすることがあり、なぜ泣いているのかを教師が理解できないことがある。
- ・カレンダーやスケジュールを眺めるのが好きで、休み時間はあまり人と関わろうとせず眺めながら一人で過ごすことが多い。
- ・抱っこでぐるぐるまわるふれあい遊びが好きで、教師が「ぐるぐるする？」と尋ねると腕をぐるぐる回して「ぐるぐるしてほしい」ことを伝えることができる。最初のきっかけづくりは教師が行うことが多く、児童が自分から「ぐるぐるして」と関わってくることは少ない。



5月当初の休み時間の様子

・活動の具体的内容

①コミュニケーションを広げる

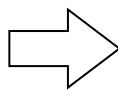
第一段階「本児が欲しい物、やって欲しいこと、行きたい場所のカードを充実させ、単語での要求場面を増やしていく」に向けて重点としたこと→★自分の思いが伝わったと感じる場面が増える。

- ・コミュニケーションツールとして常時用意していたカードは、場所(中庭、体育館、図書室など)、トイレ、絵本の3種類であったため、本児の好きな物などを中心に要求場面に合わせてカード数を増やしたり、精選したりした。
- ・取り組み当初は、昼休みに実施者が「どれにする？」と聞き、本児が選んだカードを別の教員に持って行き一緒に伝える経験を重ねた。
- ・本児が何か伝えたい様子で見つめてきたときに「何？」と聞き返すようにしたり、カードで伝えることが分かかっていないときなどに他の教員が手をとって促したりするようになった。
- ・担任間で同じ支援ができるように、共通理解を図った。

カードの種類



5月(場所(中庭、体育館、図書室など)、トイレ、絵本の3種類)



6月～(休憩時間に遊べるカードを追加)

第二段階「単語での要求が充実し、定着してきた段階で、動詞を選ぶなどしての文章づくりに移行していく」

- ・着替える、貸して、行くなどの動詞カードを2学期から活用。

第三段階コミュニケーションアプリ「たすくコミュニケーション」をカードの代替として使用を検討。



- ・実際に使用をはじめると、タブレットの起動に時間がかかったり、誤操作が多いなど、時間のロスが生じてしまった。
- ・思いをカードで伝える初期段階であったため、本児が伝えたいと感じた時に即座に行動にうつせることを大事にするために、タブレットの使用はカードを音声で確認する程度での使用にとどめた。

②見通しをもつ

・コミュニケーションの幅が広がり、自分の思いが伝わる経験を重ねることで突然泣いたりする場面が減ったものの、時間割を指さすなどして泣いたりすることが依然としてあった。

・そこで、言葉での説明だけでは煩雑な日程や、イレギュラーな日程などに対して見通しをもちやすくするためにタブレットの動画、アニメーションを活用した。

使用アプリ



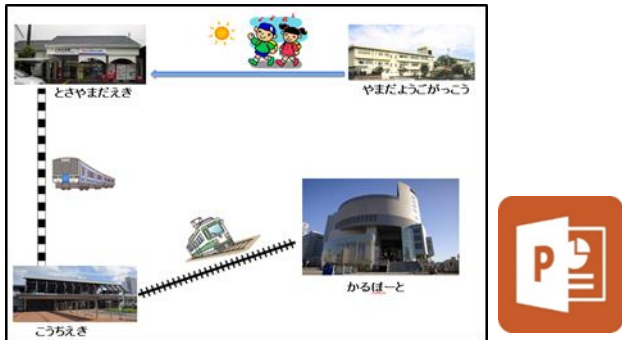
パワーポイント



カメラ



ビデオ



校外学習の日程(交通手段などをアニメーションで説明)



健康診断や防災学習など
(イレギュラーな学習内容を動画で説明)

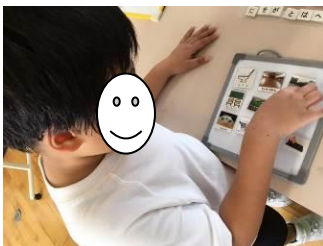
・対象児の事後の変化

①コミュニケーションを広げる

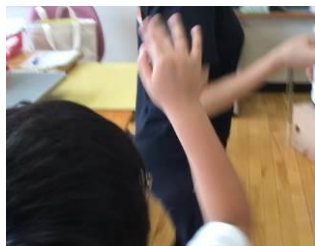
・取り組み以前から、トイレカードは自分から教員に持ってくるが多かったが、その際に必ず「先生」と自分から発声して呼ぶようになった。

・トイレと絵本のカードだけでなく、貸してほしいおもちゃや体育館のカードを自分から持ってくるが増えた。6月後半からは、昼休みになると必ず自分でカードを選んで教員に持ってくるようになった。

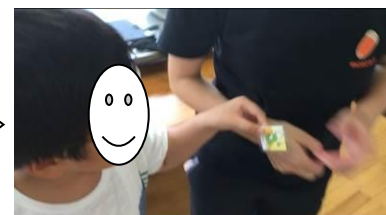
・「たすくコミュニケーション」で遊びながらカードを音声で確認するようになってから、トイレカードを持ってきた際に、語尾などの発声だけでなく、「トイレに行ってきます」などの文章を真似るように長く発声することが増えた。



カードを自分で選び



教員の肩をたたきながら
「先生」と呼ぶ



渡しながら発声する

自分の思いが伝わる経験が増えたことで・・・

・取り組み以前は、突然泣いたり怒ったりする(教員も原因が分からないことが多い)が多かったが、7月はほとんどなくなった。時々、時間割を指さすなどして泣いたり怒ったりすることがあるが、指さす物を教員が確認して思いを受け止めてから説明を加えると、短時間で気持ちを切り替える場面が増えた。

・朝の会、帰りの会で今日や明日の日付を、数字を選んで貼る場面では「やってくれる人？」の声掛けに「はい」と大きな声

を出して立候補するようになった。

・6月末には、体育館で遊んでいると、急に「先生」と声をかけて逃げ、追いかけてほしそうにこっちを見る姿が初めて見られた。(今では追いかっこが大好きに)

・7月には、ある日何も持たずに先生と声をかけてくる場面があった。教員が「何？」と聞き返すと廊下を指さして廊下に出て行ったためついていくと隣の教室に入って遊びはじめた。次の日から隣の教室カードを準備すると、翌日には自分から教室カードを持ってきて隣へ遊びに行きたいことを伝えてきた。



朝の会などで立候補

②見通しをもつ

・普段と違う活動に対して、これまでは口頭での説明や写真カードでの説明を行っていた。しかし、普段と違う日程や行事などには、口頭での説明だけではなく、アニメーションや動画などの動きを合わせて見せることで視覚的に確認ができ、理解が深まった。アニメーションや動画を見せるととても集中して見ており、また、1回見終わるともう一回見たいことを指さして伝え、2、3回繰り返して見るが多かった。

・日程の説明をする際に泣いたり怒ったりすることなく、落ち着いて聞くことができた。また、アニメーションや動画で確認したあとは、移動教室なども声かけのみで自分から落ち着いて行動する場面が増えた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○自分の思いを伝える手段をもったことで、人との関わりが増えたのではないかな。

○イレギュラーな日程などをタブレットで視覚的に確認できたことで落ち着いて活動に参加できたのではないかな。

・エビデンス(具体的数値など)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
コミュニケーションを上げる		カードを自分から持ってきて伝える								
			追いかっこなどの関わりを楽しむ							
					担任以外の教員とも関わろうとする					
見通しをもつ			校外学習			防災学習		校外学習 マラソン大会		

①コミュニケーションを広げる

・カードなどで教員に思いを伝えることができたときには、笑顔になることが多かった。自分の思いが伝わる経験を重ねたことで、周りの人と関わることの喜びや安心感をもつことができたのではないかと感じた。そして、周りに目を向ける余裕ができ、人との関わりが増えたことにつながった。担任以外の教員にも何とかして伝えようとする姿も見られるようになり、本児が関わろうとする人が少しずつ増えてきている。

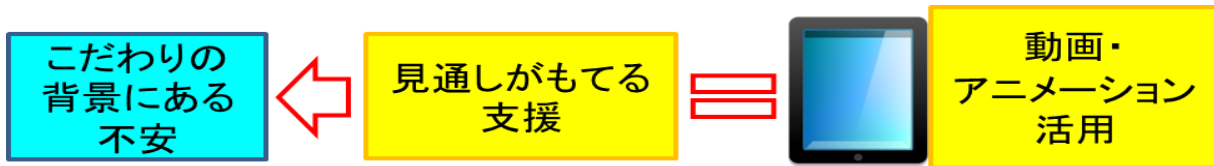
②見通しをもつ

・理解言語がごく身近な物の名称理解である児童に対して、イレギュラーな日程を口頭で説明しても、具体的なイメージをもつことができず、不安を感じてしまうのではないかと感じた。そこに動画を用いて、イメージを持たせることで、見通し、安心感をもつことができると思う。

・1学期前半にあった、健康診断では、「保健室」という言葉を聞いて保健室へ行くことは理解できているが、実際に行ってみると毎月行っている体重測定ではなかったため、自分が想像していたものと違っていたことに怒ったことがあった。しかし、1学期後半にあった歯科検診では、事前に教室で動画を見せることで、保健室で何をするのかの具体的なイメージをもつことができ、落ち着いて検診を受けることができた。

・校外学習は、交通手段や行く場所などが煩雑な日程である。そういった日程をパワーポイントのアニメーションを加えて伝えることで、日程のイメージを具体的にもつことができたと思う。

・依然として時々あった、時間割を指さすなどして泣いたり怒ったりすることに対してこだわりとしてしか捉えていなかったが、その背景には、見通しがもてていない、教員の言葉での説明だけでは理解できていないなど、「分からない、不安」などの気持ちがあるのではと考えるようになった。そこに対してICT機器を活用することで見通しがもてる支援を行うことができた。



①カードでの要求を通して、自分の思いが伝わったと感じる場面が増えたこと、②イレギュラーな日程に対してタブレットで視覚的に確認したことで落ち着いて活動に参加できたこと、を通して、安心感をもって日常生活を送ることができたのではないかと感じた。

・その他エピソード(画像などを含めて)

・学校生活全般を通して、1学期前半から比べて、口頭指示で理解できる場面が増えてきている。今年度当初は、口頭指示に対して、言葉の具体的なイメージを本児がもてていなかったのではないかと考える。しかし、実践を通してICT機器やカードを積極的に活用したことで、言葉に対する具体的なイメージをもつことができ、言葉と意味がつながる場面が増えたのではないだろうか。そして、言葉の理解が進み、口頭指示での理解につながったと考える。

・指さしなどで怒ったり泣いたりしたときには、一度思いを受け止めた後に説明(日程が変更になったことや思いを実現できないことなど)すると、切り替えて行動できることも多くなってきている。

・今後の課題

・今回の実践を通して、見通しをもつために、理解して活動できるように、動画が本児にとって有効であった。今後、提示する動画がどのような内容であれば、より本児の理解が深まるのかなどを検証することで、他の場面でも見通しをもつためのツールとして動画を活用できると考える。